

別記第1号様式

平成15年度事前評価調査書

機関名 アイヌ民族文化研究センター

整理番号	2	研究課題名	アイヌ史関係新聞記事資料に関する調査研究（釧路地方）			
事業区分	※重点領域・一般試験等 一般試験	研究区分	研究	試験	調査	分析
共同研究機関 （協力機関）						各種施策等との関連性 〈第3次北海道長期総合計画〉 大項目：だれもが安心して暮らせる住み良い社会を形成する。 中項目：アイヌの人たちの民族としての誇りが尊重され地位の向上が図られる社会の実現 目 標：アイヌ文化の保存振興とアイヌの人たちに対する理解の促進
研究期間及び 所要見込額（千円）	16年度～20年度	初年度	次年度	次々年度以降	全体所要額	
		(293 293)	(282 282)	(650 650)	(一財 1,225 1,225)	
研 究 の 概 要						
○ 研究背景 新聞記事、特に地域の新聞は、その土地の生活文化や住民の意識などがより多く反映しており、アイヌ史研究にとって重要な資料群の一つである。 しかしながら、こうした地域の新聞記事がアイヌ史の資料という視点のもとに調査されることが少ないので、アイヌ史研究の推進及び地域の歴史の学習・調査研究にとってこれら基礎的資料の整備は、大きな課題の一つとなってきた。 ○ 研究目的 戦前に北海道各地で発行された新聞に掲載されているアイヌ関係記事を調査・収集し、その内容を整理・分析することで、近代アイヌ史の基礎的資料を整備し、各地域のアイヌの歴史を明らかにする。 ○ 研究内容 地域紙におけるアイヌ関係記事の調査・収集・分析を行う。 対象地域：釧路地方 対象紙：『北東日報』『釧路新聞』（当該地域の地域紙の中で残存状況が最も良好：前者は1901～1902年、後者は1902～1942年）。 両紙ともに当初から地域面を設けて、十勝、根室地方等の記事も掲載しており、これらの地域の新聞の残存状況が極めて乏しい中において情報を補う点でも重要な資料となる。 ○ 年次別目標 平成16～19年度：1901～10年、11～20、21～30、31～40年発行分の調査 平成20年度：1941～42年発行分の調査及び補足調査、成果の取りまとめ （※平成21年度以降も、順次、対象を渡島地方、旭川地方に広げて実施する考えである） ○ 研究計画の適切性 目標を基礎的資料の整備に据えていること、道内の各地域について逐次的に進める計画の中で、アイヌ人口の最も多い胆振・日高地域に続いて、他地域の情報も豊富に掲載し、かつアイヌ人口も比較的多い釧路地方について着手したこと等は、アイヌ史研究における資料の整備状況に照らして適切な判断と考える。期間、経費等も、研究調査対象となる資料の分量に照らして妥当である。						
研 究 の 成 果 と 活 用 策						
○ 期待される成果 ・調査研究の成果は、収集した新聞記事の目録を作成するとともに、主要な記事を翻刻とそれらの解説を作成して公刊する。 ・収集した新聞記事のデータは、研究センターにおいて蓄積・作成を続けている新聞記事データベースに組み込むとともに、引き続きその拡充を図る。 ○ 実現の可能性 既に同様のテーマと手法による実績を重ねており（H13年度：十勝地方／H15年度：胆振・日高地方）、今回も同様の内容・方法によることから、所期の成果を収め報告書を刊行できると考える。 ○ 成果の活用策 ・新聞記事目録及び主要記事の翻刻と解説は、当センターの研究紀要誌上等において公刊するとともに、釧路地方の図書館やアイヌ文化関係機関等に提供する。このことにより、地域におけるアイヌ文化・郷土史の学習・調査研究に資することが期待できる。 ・研究センターにおいて蓄積する新聞記事データは、将来的にはデータベース化しインターネット等を通じた公開・提供を図る。このことは、アイヌ史・アイヌ文化の学習・調査研究のための環境・条件の整備として重要な意義を有する。						
道 が 取 り 組 む 必 要 性						
・アイヌ民族の歴史と文化に関する理解を深めることは道としても道民の生活文化に関わる施策として掲げていることから、アイヌ史を明らかにするための資料収集とその成果の提供は、道の機関として取り組むべき課題である。 ・膨大な新聞記事を丹念に調査し関係記事を拾い上げていく基礎的作業は、アイヌ史に関する専門的知見を有する当研究センターにおいて取り組むことにより効率的かつ着実に進めることができる。						
道が取り組む必要性 (a)・b・c						
【自己評価】	【意見】					
(A)・B・C	本研究は釧路地方の地域史に視点をあてた調査実績の少ない分野であり、アイヌの地域史を研究する上で新たな知見が期待できるので、研究に値する課題である。					
【総合評価】	【意見】					
A・B・C	アイヌ史の基礎的資料の収集、整理・分析を行う地域をこれまでの十勝地方、胆振・日高地方から釧路地方に広げることにより、アイヌ史研究の資料として活用され研究が推進されることからできる限り早期に取り組む必要がある。					

- (A) 重要な研究課題であり、優先的に取り組む必要がある
 (B) 有用な研究課題であり、できる限り早期に取り組む必要がある
 (C) 解決すべき問題等があり、なお検討していく必要がある

- (a) 極めて高い、適切である
 (b) 高い、概ね適切である
 (c) 低い、改善の余地がある